

亀田地区公民館運営審議会 会議概要

1 開催概要

- (1) 名称 第9期 第1回 亀田地区公民館運営審議会
- (2) 日時 令和5年7月26日(水) 午後1時30分～午後3時40分
- (3) 会場 横越地区公民館 研修室A
- (4) 出席者(敬称略)
 - ①委員 阿部菜月、植木京子、遠藤由美、大橋正治、小野幸男、
齋藤真人、齋藤裕、坂井幸恵、弦巻真里枝、戸田道治(五十音順)
(欠席)なし
 - ②事務局 【亀田地区公民館】立川正史(館長)、鈴木直美、田辺和子、佐藤敏男
【曾野木地区公民館】山上実(館長)
【横越地区公民館】山本英二(館長)、長沼 剛
- (5) 傍聴者 0人

○正副議長の選任について

議長に齋藤裕委員を、副議長に遠藤由美委員を選任

2 審議内容

※新潟市公民館事業の基本方針説明

- (1) 令和4年度事業報告(事業評価)について(亀田/大江山・曾野木/両川・横越)
- (2) 令和5年度事業計画について(亀田/大江山・曾野木/両川・横越)

3 概要(意見・質問事項)

～事業報告について～

○亀田地区公民館の事業番号10番「孫育てを楽しむ」の広報の方法、チラシの送付先を教えてください。事業評価としてはハイフン(ー)となっているが、夏のいきいきシニアの講座として実施したということなので、単発事業ではなく、まとめて「いきいきシニア」の方で評価されたという理解でよいか。また、横越地区公民館の事業番号13番について、現在ジェンダーフリーの世の中になってきている中で、事業名が「女性セミナー」となっているが、例えば曾野木地区公民館のように「共生セミナー」に事業名を変えていくことも必要ではないか。

→「孫育てを楽しむ」の広報の方法については、区だより、区のHP、新潟市LINEでの発信、公共施設へのチラシの設置により参加者を募集している。評価については、R4年度は「いきいきシニア」の方でまとめて評価している。R5年度は、「孫育てを楽しむ」を基本施策の分類でも4. 高齢者に学習や社会参加を支援する事業の「いきいきシニア」の枠に入れて実施し評価を行う予定としている。(亀田)
共生の名称については、女性セミナーについて整理し詰めてきている状況なので、今後検討していく。(横越)

○亀田地区公民館の「孫育てを楽しむ」のチラシを「プレママパパ講座」とか、乳児期家庭教育学級の参加者のお母さん、お父さん向けに配布して、お家に帰られて、おじいちゃん、おばあちゃんにチラシを配布してもらう方法もあるのではないかな。

○「孫育てを楽しむ」は、今後いきいきシニアの一部門になっていく感じか。それとも「孫育ての」の内容がなくなっていくのか。

→次年度以降は、いきいきシニアの中の一つの事業として実施していく予定。今年度は、10月に実施する予定で準備している。募集方法も今年度と同じ形で、ご意見をいただいたものも参考にしながら行いたい。(亀田)

○亀田地区公民館の事業番号2、3番の学校連携事業で、以前亀田中学校の事業に個人的に参加したことがあり、小さい子供と一緒にいき、事業内容もよかった。何より中学生に休み時間たくさん声をかけていただいて、すごく温かい良い時間を過ごせたので、今後も続けてもらいたい。

○横越の「川柳で遊ぼう」はかなり盛り上がったか。俳句の方はテレビなどでも盛り上がりがあるが、川柳はサークル化したので終わったと理解してよいか。「俳句で遊ぼう」みたいなものは考えているのかどうか。

→「川柳で遊ぼう」が思っていた以上に盛り上がり、参加された人がやっていく中で結果としてサークル化された。俳句については、俳句サークルが2つあり、文化祭への出品や文芸誌への掲載があるので道筋はできている。(横越)

○自分らしさと言うところで、ジェンダーをやっているところがあると思うが、将来的にLGBT、多様性というところに繋げていかなければいけないというところからいくと、LGBTQとしてQを入れてやっていったほうが良いと思う。それと亀田音楽祭は今年もやる予定か。育成協の事業と被っているのではないかな。開催日時も似たような時期だったように思うがどうか。

→令和5年度の予定は、10月9日に「かめだ子どもフェスティバル」を亀田地区の子どもを中心に開催予定で、音楽祭は、今年度は江南区の大人を対象にした事業になっている。昨年度の要項には江南区内の中学校・高等学校が明記されていたが、今年度は単に江南区で音楽活動をしている団体として募集を行った。(亀田)

○横越地区公民館の事業番号18番「旅するピカドンピアノコンサート」があったが、今年度、曾野木コミュニティセンターでやっている。どのように演奏者を募集したか聞きたい。

→昨年度は、ささえあいコミュニティ生協と共催で開催。全国各地を被ばくしたピアノを持ってまわっている団体の依頼を受け実施。ピアノを弾いていただいた人は、折角の機会であるので、小学生・中学生に希望を募って実施。主催者の意向もあり、ただピアノを弾くだけでなく、背景についても知っていただきたいということで、DV

Dを見たりして実施したコンサートであった。今年は、曾野木のコミュニティ協議会が曾野木コミュニティセンターで、本日実施している。(横越)

○広報の充実を図り、様々な媒体等とリンクしてやっていくことが望ましい。R4 年度の実施した事業が公民館でできなくても、他にうまく引き継いでやれるのであれば望ましい。学校教育と公民館の連携事業は充実していただきたい。

～事業計画について～

○曾野木地区公民館の事業番号 11 番「共生セミナー」で保育を行わないとのことだが、そのことに関して教えてもらいたい。

→正職員が 1 名減員となり、なかなか保育をつけた講座の開催が難しい。ゆりかご家庭教育学級、幼児期家庭教育学級の方は保育をつけて実施するが、「共生セミナー」については、保育者をつけての実施が難しいことをご理解いただきたい。(曾野木)

○予算が減額されていく中で、幼児期家庭教育学級の予算が前年比半分にされているのはなぜか。

→予算減額に伴い、昨年は 4 回で計画したところを 3 回で計画している。(曾野木)
今後は、他課との連携を含めて実施していくという方向性が示されることが想定されている(亀田)

○亀田は家庭教育講演会が 3 分の 1 になっている。感覚として、他のところでやってという感覚か。

→予算が減額になっていく中、知恵を出してやっていくしかない。また、いろいろな課との連携も考えている。亀田であれば図書館と連携をしたり、本庁の課と高齢者向けのスマホ教室の会場として利用するような話も来ているので、連携できるものは連携してやっていく方向である。(亀田)

○保育付きの講座は公民館のメリットだと思う。講座対象者が子どもと離れて講座に集中できるととてもいい機会である。また子どもの方も親など身内の家族以外の人と関わりを持つ貴重な時間なので、保育付き事業を残していただきたい。

→保育のガイドラインの見直しを行っているところであることから、他課との連携など、今後変わってくることも考えられる。(亀田)

○国の基準的では、保育士は 1 歳も 2 歳も 6 人に 1 人。新潟市は 1 歳も 3 人に 1 人になっている。公民館事業の保育者 2 人 1 人というのはもっと潤沢にしている。もしかしたら 3 人に 1 人になれば、少しは予算措置上策にはなるのかと思う。支援センターであると保護者同伴が当たり前。公民館の事業であると、子どもと離れることができ、リラックスして学びができて、子どもも一時保育的なことも経験できてというのは、新潟市のゆり

かご学級はすごく良いと言われている。

○亀田地区公民館の事業で図書館と連携して、R4年度はスマホの事業を行い、今年の6月にも行ったと思うが、今年はどうのようことを行ったのか。予算が少ない中、図書館と連携して行うことは良いことだと思うが、図書館の持っている力が活用されているのかどうか。

→今年11月頃に実施予定。高齢者がスマホを使って電話だけではなく、インターネットの検索できることが、スマホを使って図書館にとっても電子書籍を読んでもらえることに繋がることから連携して事業を実施。図書館とは、その他に読み聞かせとかその辺の部分の連携についても考えていく。(亀田)

○予算が限られている状況で、新規に事業をするのは難しく、ない中でやるには知恵を出していくしかないと思う。学校としては、生徒とふれあう機会は作りたいと思っているし、学校と地域は密接な関係にならなければならないと思うので、いろいろな事業の相談には前向きに検討したい。

○横越地区公民館は、学校へビジョンについて説明に来てくれた。委員になったことで、公民館はこんなことをしているとわかるが、他の職員はわからない。館長へお願いしたのは、もし学校が会場でできるのであれば学校を利用してほしいと伝えた。利用することで参加者にも学校を利用していただけるので良いと思う。

○教室に入れない不登校の子どもが多い。その子供たちを教頭先生や教務主任が指導にあたるので、本来は2コマくらいしか持たない教頭先生が9コマ持って学校を運営して、相当の負担がかかっている。地域との連携が大事であると思っている。家庭教育講演会については、R5年度は講師の紹介にはなるが、今後も続けていってほしい。

○曾野木地区公民館の「きもだめし」を是非とも亀田でやっていただきたい。

→曾野木地区公民館は公民館の中でやっている。アスパークは夜10時まで夜間照明がついている関係で明るいので、場所を含めて今年すぐにはできないが、考えていきたい。(亀田)

○非常に広い事業の中で、亀田地区公民館の事業番号13番の学習室の開放について、毎週の方が行きやすいと思うがどうか。それと昨年度の回数が55回となっているが毎週やっていたのか。

→毎週開放したいが、亀田地区公民館は江南区文化会館でもあり、中々部屋が空いていない状況もある。豊栄地区公民館などであればホワイエに机を配置し学習コーナーとして開放しているところもあるが、亀田地区公民館ではそのようなスペースもない。ただ、亀田図書館も併設しているので、図書館でも常時勉強はできるので、ご理解いただきたい。回数については、55回ではなく23回開放の間違いであるので修正をお願いしたい。(亀田)

- 予算が縮減される中でも、各公民館のやり方を維持して事業に取り組んでいるのはよくわかった。その中で度々話に出てきた「保育者」というのは、資格のある方なのか。
- 市の講座でお願いしている保育者は、市の研修を特別に受けていただき、かつ実践で経験を積んでいただいた方に保育者登録をしていただいて、各館で講座がある時に協力いただいている。保育園の保育士資格とは別になる。(亀田)
- 新潟市の講座で初めて会う人が2人に1人保育者となると本当に大変であると思う。命を預かるわけであるから新潟市の考えは真っ当であると思う。大人数の人を見るとき不安になるから今後も少人数の保育でお願いしたい。それと亀田地区公民館の事業番号18番の「いきいきシニア」をzoomで既にやられたということだが、今回の結果を教えてください。
- 保育者の方は、現在保育委員会でガイドラインの見直しを検討中だが、大人数に対してのことはないのでご安心いただきたい。いきいきシニアの講座で、ラジオ体操をzoomで亀田と曾野木、横越と繋いで行ったが、一部音楽が聞こえないことがあったが、映像、音声も聞こえたということで問題はなかった。講演会のように講師が一方的に話す内容であれば十分にやっているとすし、講師が東京でもzoomでの講演が可能で経費が抑えられる面もあることから、民間事業者から提案のある講演会も含めて活用しながらやっていきたい。(亀田)
- 予算も人員も削減されているところで大変だと思うが、各館努力されているように思った。また、家庭教育講演会もお世話になってきたので、今度は児童館の方でも移動児童館として、各保育園や亀田総合体育館の方にもカプラを持って行ったこともあるので、子どもの遊び場、居場所を提供することも児童館としてできると思う。他区には児童館がたくさんあるが、江南区では唯一の児童館であるので、公民館の場所を借りたりだとか、共催で何かを行うことができたらと思う。
- 公民館は予算が削減される中、頑張っているのを感じる。地域の方でも何かを教えられるとか、これができるよ、みたいにボランティアとして来てもらえるような声かけも必要ではないか。
- 学校と地域の密接な関係は大事だと思うが、新潟市は令和8年度に部活動の地域移行が行われる。併せて平日の部活動についても勤務時間内は部活動と認めるが、それ以外は部活動ではない。ここまでは決まっている。今どういう形がよいかCSを含めて考えている。令和8年度には、子どもたちは、休日と平日の夜は確実に地域に帰るので、地域の中で受け皿作りができないと難しい。何かいいアイデアがあれば各中学校に言っていただいて、その辺を情報共有して進めていきたい。